

平成19年度 事務事業評価表					
(様式1)					
記入年月日	平成19年4月6日	記入者		連絡先	750-8025
平成18年度部名	総務部	課名	総務課市史編さん室	課長名	篠崎 功
平成19年度部名	総務局	課名	総務課市史編さん室	課長名	篠崎 功
事務事業名	市史編さん事業				
予算上の事務事業名	市史編さん事業				
1 総合計画における位置づけ	施策コード			16210	
基本目標	「学びあいあたたかさのある福祉文化都市」をめざして				
政策名	第6章 彩りのある市民文化を創造します				
基本施策名	第2節 郷土意識づくりの推進				
施策名	第1施策 郷土意識の醸成				
2 実施根拠及び関連法令・条例・規則・要綱等	公文書館法、付属機関の設置に関する条例、相模原市市史編さん審議会規則、相模原市市史編集委員会設置要綱				
3 個別計画の概要	概要				
計画名	相模原市史続編編さん基本構想			既刊の市史で触れていない時代・分野について、市史続編10巻を刊行するとともに、編さん過程で収集した資料の保存・活用を図る。	
計画年次	13	年度～	29	年度	
4 事業形態の区分	調査・研究			5 事業開始年度	平成13年度
6 事業概要	(1) 事業の目的(何のために行うのか、またはもたらしたい成果)				
			(2) 対象(誰、何)		
・既刊の市史では触れていない昭和20年8月以降の現代史及び各分野(自然、民俗、考古等)について、市民の協力を得ながら資料収集・調査研究を進め、市民に親まれる市史を刊行し、郷土意識の醸成に資するとともに、編さん過程で収集した資料の保存・活用を図ることを目的とする。 ・事業を通して、市民の地域に対する関心と認識が高まるとともに貴重な自然や歴史・文化遺産が市民共有の財産として将来に継承され、地域の歴史や現状を見つめ直すことで、地域の課題が明らかになることが期待できる			相模原市民、相模原市史に関心のある者及び研究者		
(3) 平成18年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会(1回)・編集委員会(1回)の開催</li> <li>・各部会の開催・調査活動(近現代・自然・民俗・考古・文化遺産)</li> <li>・市史講演会の開催 11月25日参加者110人、3月17日同129人(無料)</li> <li>・市史ノート第4号の刊行(700部)、考古調査報告書の刊行(500部)</li> <li>・市史編さんだよりの発行(年6回奇数月)</li> <li>・相模原市史現代図録編、市史ノート(創刊号、第2号、第3号)、既刊市史の販売</li> </ul>					
7 関連事業・類似事業又は他市の状況	全国の市町村で同様な目的で実施されている。編さん事業を行う期間、刊行する内容・巻数などは自治体により様々である。県内の自治体では、横須賀市が平成11年度から新横須賀市史編さん事業を開始し、平成16年度に全15巻のうち第1巻目を刊行し、平成25年度まで総事業費約15億円をかけて行う予定である。横浜市は、昭和60年度から平成16年度まで横浜市史 全16巻を刊行した。				
8 事業費の推移	[単位:千円]				
年 度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
事業費	36,769	22,832	24,218	36,890	37,910
一般財源	33,904	22,389	23,911	36,554	36,744
受益者負担金	0	0	0	0	0
その他の特定財源	2,865	443	307	336	1,166
人件費の合計	48,420	49,022	49,022	52,342	60,392
事業コスト合計	85,189	71,854	73,240	89,232	98,302
9 事業効率・・・活動単位当たりの事業効率					
事業名 (主たる事業名)	市史編さん事業			対象名称 と単位	事業
年 度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
事業コスト(主たる事業)	36,769	22,832	24,218	36,890	37,910
対 象 数	1	1	1	1	1
単位あたり経費(円)	36,769,000	22,832,000	24,218,000	36,890,000	37,910,000
前 年 度 比		0.62	1.06	1.52	1.03

1 0 活動指標・・・実施した内容（活動）を数値化したもの					
指標名と単位	刊行物配布数（冊）	指標式と指標の説明	刊行物（既刊相模原市史、市史現代図録編、市史ノート）の有償・無償配布数の合計		
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
実績	2,519.0	691.0	1,286.0		
目標	3,600.0	1,000.0	700.0	880.0	1,740.0
目標達成度（％）	70.0	69.1	183.7		
1 1 成果指標・・・もたらしたい成果の達成度を数値化したもの					
指標名と単位	市史の刊行（巻）	指標式と指標の説明	市史刊行巻数（累計）		
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
実績	1.0	1.0	1.0		
目標	1.0	1.0	1.0	2.0	3.0
目標達成度（％）	100.0	100.0	100.0		
1 2 個別評価					
(1) 妥当性の評価 [ A : 妥当である・ B : 妥当性に課題がある・ C : 妥当でない ]					
A	<input type="checkbox"/>	・法令、条例により実施することが義務付けられている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・法令、条例に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input type="checkbox"/>	・将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 [ A : 有効である・ B : 有効性を高める余地がある・ C : 有効でない ]					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	・上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input type="checkbox"/>	・課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 [ A : 効率が良い・ B : 効率性を高める余地がある・ C : 効率が悪い ]					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	・単位あたりの経費は適正である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・再任用や非常勤職員などを活用しても、これ以上のコスト節減の余地がない。			
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力または市民協働の導入の可能性 [ 有・無 ]					
無	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、民間で実施する方が適している。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、市民協働により推進する方が適している。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部に民間委託を導入しているが、さらに民間委託を導入しても効果が見込めない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・市で実施する方が民間委託等をするより適している。			
1 3 総合評価（一次評価）					
(1) 自動判定結果					
[            ] : 良好な状態を維持する事業					
[            ] : 概ね良好な状況である事業					
[            ] : 見直しを行う必要がある事業					
[            ] : 抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業					
(2) 事業所管課長による評価（今後の方向性）			(3) 事業所管課長の評価に関する説明		
現状維持	<input type="checkbox"/>	・拡充・充実		・平成17年度において、刊行計画の見直しを行った ・平成29年度までに残り9巻を刊行する予定であるが、地道な調査・研究の蓄積を図りながら、計画を遅延することなく進めたい。 ・編さん過程で得られた資料について、適正に保存し、かつ市民の利用に供することを併せて検討していく。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			
1 4 成果向上及び効率性を高めるための方策			1 5 課題として認識されたこと		
・広報紙、インターネット、講演会などを通して、より多くの人に市史編さん事業について、理解・協力してもらおうさらに働きかける。 ・市史の刊行にあたっては、市民に親しまれるような内容の作成に努める。			・事業の進行に伴い、蓄積されていく資料の保存場所、市民への提供場所の確保が課題となっている。		
1 6 二次評価					
(1) 局内評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	・拡充・充実			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			